

正 信 念 仏 偈 21

■天親讃②

依修多羅顯真実
光闡横超大誓願
広由本願力回向
為度群生彰一心

修多羅によりて真実を顕して、
横超の大誓願を光闡す。
広く本願力の回向によりて、
群生を度せんがために一心を彰す。

現代語訳

浄土の經典にもとづいて阿弥陀仏のまことをあらわされ、
横超のすぐれた誓願を広くお示しになり、
本願力の回向によってすべてのものを救うために、
一心すなわち他力の信心の徳を明らかにされた。

~~~~~

天親菩薩『浄土論』 「願生偈」

世尊、われ一心に尽十方無礙光如来に帰命したてまつりて、安楽国に生ぜんと願ず。われ修多羅の真実功德相によりて願偈を説きて総持し、仏教と相応せん。

→ 天親菩薩の信心表白・『浄土論』著述の意図

修多羅…sūtra（スートラ）の音写。原語は糸・紐を意味し、漢訳では「経」と訳される。

親鸞聖人『尊号真像銘文』

「修多羅」は天竺（印度）のことば、仏の經典を申すなり。仏教に大乘あり、また小乗あり、みな修多羅と申す。いま修多羅と申すは大乘なり、小乗にはあらず、いまの三部の經典は大乘修多羅なり、この三部大乘によるとなり。「真実功德相」といふは、「真実功德」は誓願の尊号なり、「相」はかたちといふことばなり。

→ 浄土三部経（『仏説無量寿経』・『仏説観無量寿経』・『仏説阿弥陀経』）

→ 「顯真実」とは浄土三部経によって名号のおいわれを顯された。

光闡…ひろく説きのべること

横超…他力の法門

縦の法門…自力による成仏を説く教え  
横の法門…他力による往生成仏を説く教え

令和4年 6月26日 信行寺仏教入門講座

大誓願・・・阿弥陀仏が「南無阿弥陀仏」ひとつで、すべてのものを救うと誓われた本願（第十八願）のこと。

### 本願力回向の信心

親鸞聖人『一念多念文意』

「回向」は本願の名号をもって十方の衆生にあたへたまふ御のりなり。

### ※『歎異抄』「信心一異の諍論」あらすじ

法然聖人のもとで、聞法を続けておられたある日のことです。親鸞聖人が「私の信心と、師・法然聖人の信心とは同じです」と言ったので、多くの兄弟子たちと論争になりました。兄弟子たちは、「師の信心と弟子である私たちの信心が同じであるとは、とんでもないことだ。法然聖人に対して失礼な話ではないか」というのです。

親鸞聖人は「智慧、才覚、学問では、法然聖人に及ぶべくもありませんが、信心は阿弥陀さまから賜った信心（他力の信心）だから、師の信心も私の信心も同じです」と言って意見を曲げませんでした。それならばどちらの主張が正しいか直接、法然聖人にお尋ねしたところ、「自分のはからいでつくる信心（自力の信心）なら信心は各人各別ですが、みほとけからいただく信心は皆同じです。だから源空（法然）の信心と、善信房（親鸞）の信心は全く同じです」と申されました。さらに法然聖人は、私と別の信心をいただいております人は、源空と同じお浄土へ往生することはありますまいと仰せになられました。

### ○「一心」による救い

世尊、われ一心に尽十方無礙光如来に帰命したてまつりて、安樂国に生ぜん願ず。

### 阿弥陀仏の第十八願

わたしが仏になるとき、すべての人々が「まことの心で(至心)信じ喜び(信樂)、わたしの国に生れると思って(欲生)、わずか十声念仏して、もし生れることができないようなら、わたしは決してさとりを開くまい。ただし、五逆の罪を犯したり、仏の教えを誇るものだけは除かれる。

本願には至心・信樂・欲生の三心が説かれているのに、天親菩薩はなぜ「一心」と表現されているのか？それは至心（如来の智慧）と欲生（如来の慈悲）は信樂の一心（無疑心）におさまるから。（『教行信証』「信巻」三一問答）

→「南無(まかせよ)阿弥陀仏(われに)」の勅命を受け入れた信樂には、如来の智慧と慈悲の徳が具わっている。故に信樂一心が往生・成仏の正因となり、その一心は阿弥陀仏から恵み与えられる。＝「広由本願力回向 為度群生彰一心」